⑧　市民農園事業

産業環境部
産業観光課

説明の流れ

１. 事業概要

２. 現状の評価と課題

３. 今後の方向性

４. まとめ

１．事業概要　（１）事業の目的

遊休化した農地を町が農地所有者から借り受けて区画割し、農業に関心のある町民に区画を貸す事業で、事業開始から約10年（平成１６年度～）が経過します。

目的

① 余暇の充実や生きがいの場を提供

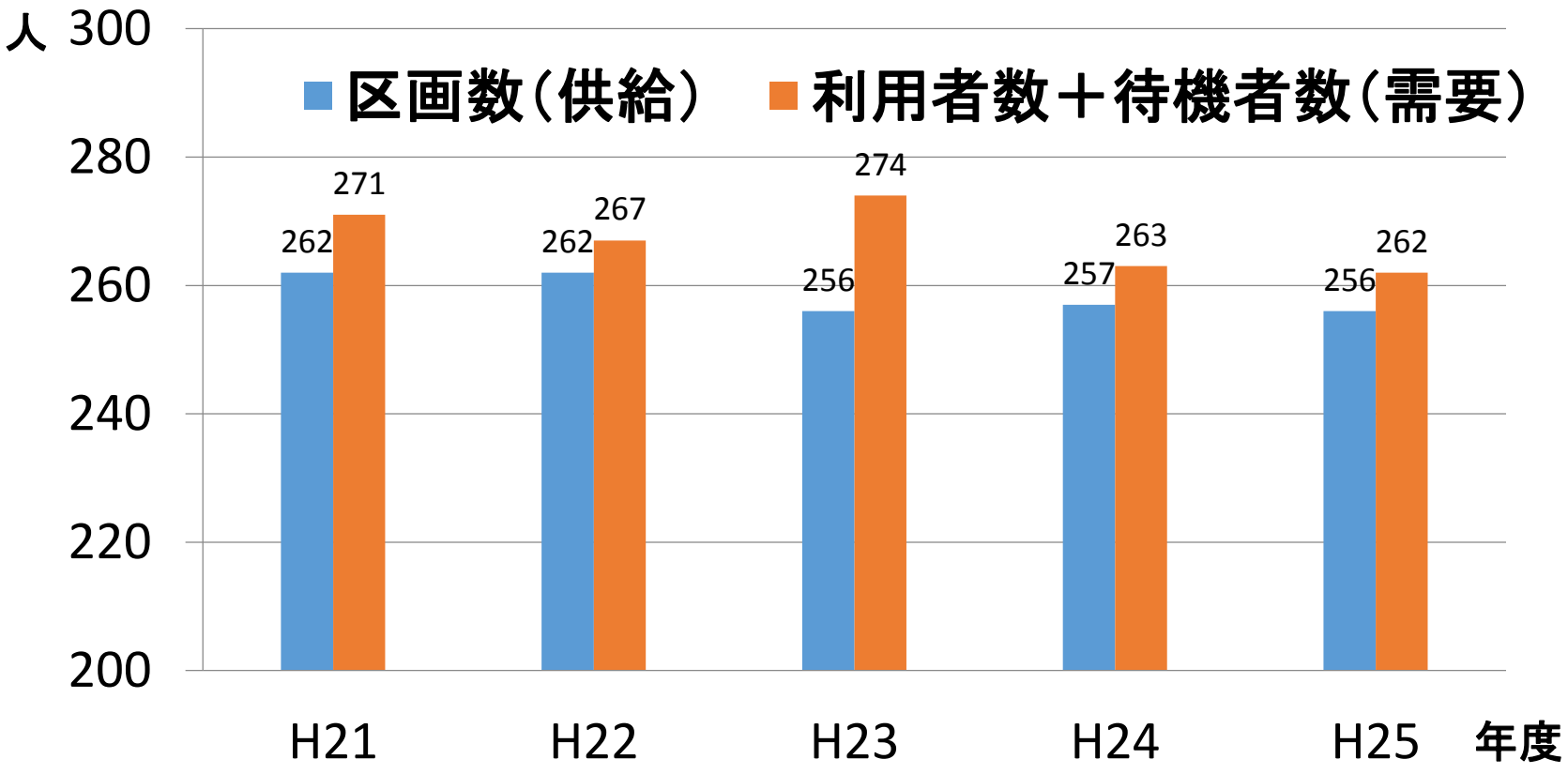
② 農地の保全・活用

1．事業概要　(2)事業の内容

NO.	項　目	内　容
1	農園・区画数	7農園、254区画、7，347㎡
2	区画面積	原則、20㎡
3	利用料	20㎡　当り　1，000 円/年
4	利用者条件	本町に住民登録がある方
5	利用期間	原則、最長3年
6	付帯施設	無し（駐車場、水道、トイレ等）
7	執行体制	町職員実施（現場作業も含む）

【特徴】区画のみを低価格で提供

1．事業概要　（3）利用状況



【傾向】供給数を超えるニーズ

1．事業概要　（4）事業の収支

平成26年度予算

項　目	内　訳	金額（円）	備　考
歳 入	利用料	261，000	
歳 出	用地借上料	111，000	
	消耗品	44，000	
	燃料費	5，000	
	手数料	7，000	
	＜ 小 計 ＞	167，000	歳入 ÷ 歳出 ≒ 1．56
	人件費	552，000	
	＜ 合 計 ＞	719，000	歳入 ÷ 歳出 ≒ 0．35

【課題】収支バランスの改善（運営の効率化、利用料の増額）

２．現状の評価と課題　（１）評価

成　果	①区画数を超えるニーズが継続的にある　⇒低価格で借りられる ②区画数は10年前の約150区画 ⇒ 254区画へ拡大
妥当性	公益的事業の部分もあり、町が主体となる意義はある。
効率性	コスト縮減を図るため、事業の効率化の検討を実行中（H25～） ①作業時間のモニタリング ②作業の簡素化、効率的ツールの活用 ③利用者による共有箇所の自主管理の周知徹底 ⇒現場作業時間の短縮化　（8月末現在：昨年度対比50%の減）
多面的機　能	就農の検討の場、　健康管理、　観光振興、　定住促進

２．現状の評価と課題　（２）課題

１）利用料の適正化

２）サービス向上の声が増えつつある。

例えば、・面積をもう少し大きくしてほしい。

・３年の利用期間を延長してほしい。

・設備の充実（水道、駐車場、休憩場所等）

３）全国的な動向を踏まえた事業の展開

・現場作業も含め町職員のみで対応しており、非効率。

・民間（農家等）でも市民農園が開設できるようになっている。（H17～）

３．今後の方向性
課題の解決策（案）と現在の進捗状況

１．効率的な運営と利用料金の適正化による事業の継続

①作業の効率化　・・・現在、進行中

②利用料の見直し　・・・現在、検討中【早急】

・人件費を含めた収支に見合った価格設定

（当初：500円　→　現在：1千円　→　今後：2千～3千円を予定）

③作業の委託化の検討　・・・現在、検討中

２．多様な開設者の参入によるサービスの多様化と整備拡大

⇒利用者の選択肢を増やす『 **選べる市民農園** 』

町立：　利用料金が安い

その他：利用料金は高めだが、サービス、施設、指導等が充実

①開設にあたってのサポート体制の整備、制度普及　・・・現在、計画中

②県営市民農園の開設　・・・H26から開始

４．まとめ

市民農園事業は、開始から10年が経過し、これまでに利用料金の見直し（500円→1，000円）、また、作業の効率化等実施しているが、今後は、以下の点を考慮して事業を進めていく必要がある。

①収支を考慮した利用料金の見直し

②利用者による自主的な除草作業等の徹底

③開設希望者へのサポート

④官から民へ、事業主体の移行も視野に入れた事業の展開